



2023年1月30日

各位

東京都千代田区神田司町二丁目 12 番地 1
 会社名 アース製薬株式会社
 代表者 代表取締役社長 CEO 川端克宜
 (コード番号: 4985 東証プライム市場)
 上席執行役員
 問合せ先 グループ経営統括本部 三塚 剛
 本部長
 (TEL. 03 - 5207 - 7458)

2022年12月期 通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2022年12月期(2022年1月1日～2022年12月31日)通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 通期業績予想の修正について

(1) 2022年12月期 通期連結業績予想数値の修正(2022年1月1日～2022年12月31日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|------------------------------|---------|--------|--------|-------------------------|----------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回発表予想 (A) (2022年2月14日公表) | 155,000 | 10,750 | 11,150 | 7,280 | 330.30 |
| 今回修正予想 (B) | 152,300 | 7,400 | 8,100 | 5,300 | 240.30 |
| 増減額 (B-A) | ▲2,700 | ▲3,350 | ▲3,050 | ▲1,980 | |
| 増減率 (%) | ▲1.7% | ▲31.2% | ▲27.4% | ▲27.2% | |
| (ご参考) 前年実績 (2021年12月期) | 203,785 | 10,667 | 11,362 | 7,142 | 323.76 |

(注) 2022年12月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しており、ご参考に記載している前連結会計年度と収益の会計処理が異なります。

(2) 2022年12月期 通期個別業績予想数値の修正(2022年1月1日～2022年12月31日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|---------------------------|---------|-------|-------|-------|----------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回発表予想 (A) | — | — | — | — | — |
| 今回修正予想 (B) | 76,500 | 3,800 | 4,500 | 3,100 | 140.55 |
| 増減額 (B-A) | — | — | — | — | |
| 増減率 (%) | — | — | — | — | |
| (ご参考) 前年実績 (2021年12月期) | 128,299 | 8,311 | 9,012 | 6,309 | 286.00 |

(注) 2022年12月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しており、ご参考に記載している前連結会計年度と収益の会計処理が異なります。

(3) 修正の理由

① 売上高

国内では、主な収益源である虫ケア用品において、天候不順の影響などにより市場規模が計画立案時の想定を下回りました。特に最大のカテゴリーであるハエ・蚊用市場が低調であり、『アースノーマット』など主力品の売上に影響を及ぼしました。また、需要期を過ぎた10月以降の返品量が想定を上回り、収益を圧迫しました。当期に発売した高価格帯の新製品『マモルーム』や『イヤな虫ゼロデナイト』の着実な貢献もあり、当社の市場シェアは前期を上回る水準でしたが、虫ケア用品全体としては計画に満たない見込みとなりました。

日用品に関しては、消臭芳香剤や掃除用品などは計画を上回る売上を達成した一方、入浴剤、洗口液、衣類用防虫剤がいずれも計画未達となりました。総合環境衛生事業については、年間契約件数の増大などが寄与し売上計画を達成しました。

また、成長ドライバーとして注力する海外では、度重なるロックダウンの影響などにより中国の売上が停滞する一方で、タイ・ベトナムなどASEANでの展開は計画を上回る好調な推移となりましたが、グループ全体の売上は計画を下回る見込みとなりました。

② 売上原価/売上総利益

主な収益源である虫ケア用品の売上構成低下に加え、資源・エネルギー価格の上昇を発端とした原材料価格等の高騰・為替変動の影響を受け、売上原価率が想定を上回りました。これに加えて売上計画の未達分が影響し、処方の変更や包装の簡素化によるコストダウンを実施したものの、売上総利益が計画を下回る見込みとなりました。

③ 販管費

業績状況に応じたコストコントロールを実施し、広告宣伝費、旅費交通費などの活動費を計画の範囲内で適切に活用しましたが、①、②の影響による利益の未達分をカバーするには至りませんでした。

これらにより、営業利益は計画を下回る見込みとなり、想定外の為替差益を計上したものの、経常利益、また当期純利益についても、営業利益同様に計画を下回る見込みとなりました。

なお、剰余金の配当に関しては、前回公表の通り、1株当たり配当金を118円とする予定です。

※ 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以上